

2023 年合格目標 TAC 中小企業診断士講座 『運営管理』 正誤表

2023/7/19 更新

※当正誤表は中小企業診断士講座全コース共通のものになります。
 ※教材によっては、お申込みのコースに含まれないものもございます。詳しくは受講ガイドにてご確認ください。
 ※更新日は正誤表に掲載した日付となります。**最新版は TAC WEB SCHOOL のマイページ「正誤情報」**をご確認ください。

【今回更新分】

更新日	教材／ページ・行	誤	正
■1次最終講義レジュメ『運営管理』			
7/19	p. 19 (3) 最終チェック問題 選択肢ウ 1行目	PERT では、最早着手日と再遅着手日が一致する～	PERT では、最早着手日と最遅着手日が一致する～
7/19	p. 55 6行目	・居住調整 <u>区域</u> は、～	・居住調整 <u>地域</u> は、～

【前回更新分】

更新日	教材／ページ・行	誤	正
■基本テキスト『運営管理』			
12/6	p. 93 図表 1-2-51 の下の 文章 2行目と 4行 目	部品 <u>Y</u>	製品 <u>Y</u>
1/18	p. 154 ④ HACCP の 本試験出題実績	R3 <u>30</u>	R3 <u>40</u>
12/6	p. 189 図表 2-1-9 内 用語	居住調整 <u>区域</u> 住宅地化を～	居住調整 <u>地域</u> 住宅地化を～
1/18	p. 198 上から 4行目	中心地域に <u>2,691</u> 、周辺地 <u>辺</u> に <u>478</u> の立地であり～	中心地域に <u>478</u> 、周辺 <u>地域</u> に <u>2,691</u> の立地であり～ ※正誤にともない、同頁 3～5 行目「ただし～注意した い。」までの文章を削除
■トレーニング『運営管理』			
1/18	p. 140 A1-2-33 PERT 図 作業 C に対する吹き 出しの文章 右端のノードの番 号	作業 C に対する吹き出しの文章 作業 C は、クリティカルパス上の作業ではない。ノード 5 に 1 日の余裕が見られるため、2 日でなく 3 日まで作業を短縮す ればよい。 右端のノードの番号	作業 C に対する吹き出しの文章 作業 C は、クリティカルパス上の作業ではなく、1 日の余裕が 見られるため、2 日でなく 3 日まで作業を短縮すればよい。 右端のノードの番号
		6	5

2023 年合格目標 T A C 中小企業診断士講座 『運営管理』 正誤表

12/27	p. 152 A1-2-49 選択肢ウ、エの解説	<p>ウ ○：正しい。一定の発注点に対し、発注量を増加させると、在庫量が<u>増加</u>するため、年間の品切れ量は、減少する。</p> <p>エ ×：一定の発注量に対し、発注点を高くすると、<u>発注回数</u>が増加し、年間の品切れ量が減少する。</p>	<p>ウ ○：正しい。一定の発注点に対し、発注量を増加させると、在庫量が<u>発注点を下回る回数</u>が減少するため、年間の品切れ量は、減少する。</p> <p>エ ×：一定の発注量に対し、発注点を高くすると、<u>従来と比べ保有する在庫量が増え</u>、年間の品切れ量が減少する。</p>																																																																								
5/30	p. 228 A2-4-12 選択肢オ 4 行目	～、 <u>積載効率</u> や <u>配送効率</u> 向上のメリットが期待できる。	～、 <u>荷役効率</u> や <u>配送効率</u> 向上のメリットが期待できる。																																																																								
■ 1 次上級テキスト『運営管理』上巻																																																																											
10/21	p. 3 2) 設問別の正答率	<table border="1" style="margin: auto; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> </tr> <tr> <th>設問数</th> <th>構成比</th> <th>設問数</th> <th>構成比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12</td> <td>27.3%</td> <td>5</td> <td>11.4%</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>31.8%</td> <td>13</td> <td>29.5%</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>20.5%</td> <td>15</td> <td>34.1%</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>13.6%</td> <td>9</td> <td>20.5%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>6.8%</td> <td>2</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;">59.1%</td> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;">40.9%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;">20.5%</td> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;">25.0%</td> </tr> </tbody> </table>	令和 2 年度		令和 3 年度		設問数	構成比	設問数	構成比	12	27.3%	5	11.4%	14	31.8%	13	29.5%	9	20.5%	15	34.1%	6	13.6%	9	20.5%	3	6.8%	2	4.5%	59.1%		40.9%		20.5%		25.0%		<p>正しくは以下のとおり</p> <table border="1" style="margin: auto; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="2">令和 2 年度</th> <th colspan="2">令和 3 年度</th> </tr> <tr> <th>設問数</th> <th>構成比</th> <th>設問数</th> <th>構成比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>11.4%</td> <td>12</td> <td>27.3%</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>29.5%</td> <td>14</td> <td>31.8%</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>34.1%</td> <td>9</td> <td>20.5%</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>20.5%</td> <td>6</td> <td>13.6%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4.5%</td> <td>3</td> <td>6.8%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;">40.9%</td> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;">59.1%</td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;">25.0%</td> <td colspan="2" style="background-color: #cccccc;">20.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和 2 年度と令和 3 年度の数値が逆</p>	令和 2 年度		令和 3 年度		設問数	構成比	設問数	構成比	5	11.4%	12	27.3%	13	29.5%	14	31.8%	15	34.1%	9	20.5%	9	20.5%	6	13.6%	2	4.5%	3	6.8%	40.9%		59.1%		25.0%		20.5%	
令和 2 年度		令和 3 年度																																																																									
設問数	構成比	設問数	構成比																																																																								
12	27.3%	5	11.4%																																																																								
14	31.8%	13	29.5%																																																																								
9	20.5%	15	34.1%																																																																								
6	13.6%	9	20.5%																																																																								
3	6.8%	2	4.5%																																																																								
59.1%		40.9%																																																																									
20.5%		25.0%																																																																									
令和 2 年度		令和 3 年度																																																																									
設問数	構成比	設問数	構成比																																																																								
5	11.4%	12	27.3%																																																																								
13	29.5%	14	31.8%																																																																								
15	34.1%	9	20.5%																																																																								
9	20.5%	6	13.6%																																																																								
2	4.5%	3	6.8%																																																																								
40.9%		59.1%																																																																									
25.0%		20.5%																																																																									
■ 1 次上級テキスト『運営管理』下巻																																																																											
11/29	p. 119 令和 3 年度 第 35 問 解答イの 1 行目	イ ×： <u>物注</u> センターを介することなく、	イ ×： <u>物流</u> センターを介することなく、																																																																								
3/2	p. 141 令和元年度 第 39 問 選択肢 c 解説 3、4 行目	<p>3 行目 CRM とは、個々の顧客のロイヤリティを長期的に高め、</p> <p>4 行目 ロイヤリティ向上に有効な～</p>	<p>3 行目 CRM とは、個々の顧客のロイヤリティを長期的に高め、</p> <p>4 行目 ロイヤリティ向上に有効な～</p>																																																																								
1/20	p. 176 (5) 新規に開業した SC の立地 3 行目	中心地域に <u>2.691</u> 、周辺地域に <u>478</u> の立地であり～	中心地域に <u>478</u> 、周辺地域に <u>2.691</u> の立地であり～ ※正誤にともない、2～4 行目「ただし～注意したい。」までの文章を削除																																																																								
■ 第 1 次試験過去問題集『運営管理』																																																																											
3/3	p. 35 第 5 問 解説全体	次ページをご参照ください																																																																									

2023 年合格目標 T A C 中小企業診断士講座 『運営管理』 正誤表

p. 57 第 30 問 選択肢イ 解説 2 行目	～記憶された価格を内部参照価格という。	～記憶された価格を内的参照価格という。
p. 125 第 35 問 選択肢イ 解説 1 行目	イ ×：物注センターを介することなく、	イ ×：物流センターを介することなく、
p. 163 第 2 問 解説 2～3 行目	～在庫の総量をエシエロン在庫とよぶ。	～在庫の総量をエシエロン在庫とよぶ。
p. 266 第 39 問 選択肢 c 解説 2～4 行目	2～3 行目 CRM とは、個々の顧客のロイヤリティを長期的に高め、 4 行目 ロイヤリティ向上に有効な～	2～3 行目 CRM とは、個々の顧客のロイヤリティを長期的に高め、 4 行目 ロイヤリティ向上に有効な～
p. 290 第 30 問 [解答群] ア～オ A	ア～ウ 短期性 エ、オ 長期性	ア～ウ 短期的 エ、オ 長期的

正誤を発生させてしまいまして誠に申し訳ございません。ご確認の上、訂正いただきますようお願い申し上げます。

■ 第 1 次試験過去問題集 『運営管理』 p. 35 第 5 問

第 5 問

統計的検定の 1 つである t 検定に関する問題である。t 検定とは、2 つの母集団の平均値に違いがあるかどうかの検定に用いられる。

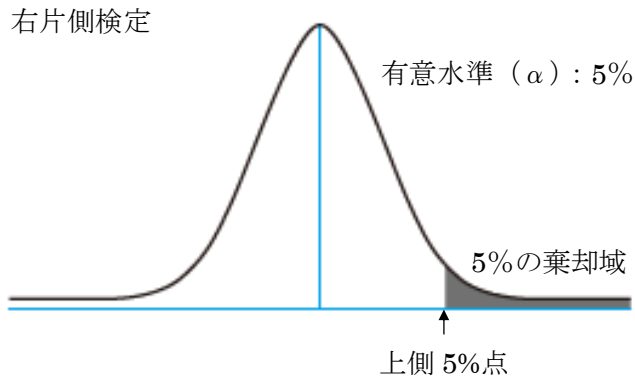
「2 つの標本の母分散が未知であるが等しいこと」が t 検定を用いる前提である（本問ではこの前提まで意識する必要はない）。

確認したい内容を対立仮説とし、その反対を帰無仮説として設定する。

- ・ 帰無仮説 「生産条件の変更によって（製品）特性の平均値は変化していない」
- ・ 対立仮説 「生産条件の変更によって（製品）特性の平均値が上がった」

設定した帰無仮説について検定を行う。本問では、「（製品）特性の平均値が変わったか（大きくなったり小さくなったり）」ではなく、

「大きくなったか」を検証するため、両側検定ではなく右片側検定を行う。

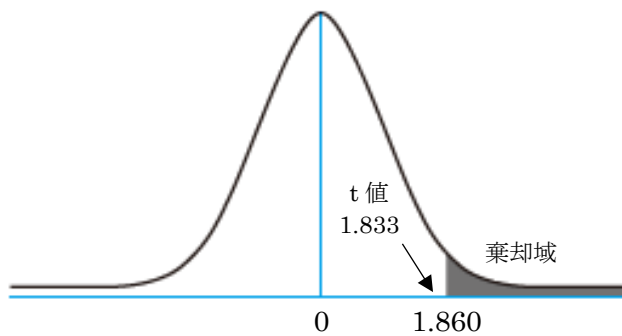


まずは、与えられた設定条件より、検定統計量 t の値を求める。検定統計量 t は、データの平均を \bar{x} 、母平均を μ 、標準偏差を s 、サンプルサイズ n とすると、以下のように算出される。

$$t = \frac{\frac{\bar{x} - \mu}{s}}{\frac{1}{\sqrt{n}}} = \frac{71 - 65.5}{\frac{9}{3}} = \frac{5.5}{3} \approx 1.833$$

この検定統計量 t 値が、棄却域に含まれるか否かで、帰無仮説「生産条件の変更によって（製品）特性の平均値は変化していない」が棄却されるか否かを判断する。

次に、棄却域の境界（上側 5%点）を、与えられた t 表から求める。検定に用いる自由度とは、自由に動けるサンプルサイズのことをいい、 t 検定では「自由度はサンプルサイズから 1 を引いた値」となる（中小企業診断士試験における検定に関する問題では、（自由度 = サンプルサイズ - 1）と考えて差し支えない）。本問においては、サンプルサイズが 9 個と示されているので、自由度は 8 となる。よって、上側 5%点は 1.860 となる。



以上より、検定統計量の値は、棄却域に含まれていないと判断できる。したがって、検定統計量の値が「1.860 より小さくなった」（空欄 A）。これにより帰無仮説が棄却されず、生産条件の変更によって平均値は上がったと「いえない」（空欄 B）。

よって、エが正解である。